ときわぎ国領保育園

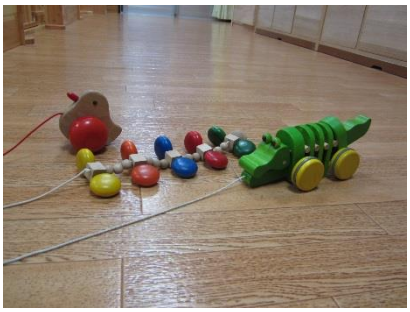
保育日記★

12月号

平成27年５月より、ページをリニューアルした「保育日記★」！毎月更新しています。
保育中に出会った子ども達の素敵な姿や、楽しいエピソードなどをお伝えしていきます。

ワニさんとお散歩♫

2015.11　ひよこ組　０歳児クラス



ひよこ組の手引き玩具です。カタコトッ、クネクネ、グアッグアッと音や動きが楽しいおもちゃです。

上手に引くとワニさんがカタコトッ言いながらついてきてくれます♫

ひよこ組（０歳児クラス）には、歩行ができるようになった子が遊ぶ“手引き玩具”があります。

少しやんちゃなＨくんが、ワニの形の手引き玩具を引っ張って遊んでいた時の事です。引っ張りながら、だんだんと速度が上がり、走り始めてしまいました。

保育者が「歩いてお散歩してね」と声をかけますが、ヒヒッとずる賢い笑みを見せ、再び走って引っ張っています。
強引に引っ張っていたため、カタコトッカタコトッと音を鳴らして進むワニもひっくり返って引きずられている状態に…

そこで「Ｈくん、ワニさんをよく見てごらん。ひっくり返っちゃったよ？」と伝えると、ひっくり返ったワニをジッと見つめ、自分で起こしてあげていました。

「ワニさん、転んじゃうね。ゆっくり歩いたら、ワニさんついてこられるかな？」
少し考えた顔をしたＨくん…
その後はゆっくりと歩いて、少し進むと後ろを振り返り、ワニの様子を伺うＨくん。
「れない！（たおれない）」と保育者に伝えて、その後は嬉しそうに歩いていました。

記事：林

子ども達は毎日、様々な事を経験し、学んで習得しています。特に、遊びの中から学ぶことは多くあります。このＨくんのエピソードも遊びの中で自らが気づき、喜びを保育者と共感できた一場面です。ワニさんを強引に引っ張ることを「ダメ、しないで」と否定するのではなく、どうしたら上手に引けるか、子どもが自ら気づけるような言葉がけをしていますね。私たち保育者は子どもが自分から考えたり、やろうとする意思を尊重することを大切に関わっています。その中で、どんな小さな０歳児の子ども達にも意思や学びがあることに驚きや感動をさせられることが日々たくさんあります♫

ボール送りゲーム

2015.12　ぞう赤組　３歳児クラス

後ろの人にボールを渡します

ぞう赤組（3 歳児クラス）は、“ボール送りリレー”をやってみました。
最近徐々に遊びや日常生活にルールがあることを知り、ルールを守って遊ぶことが大切だということが分かってきた赤組さん。順番を守ったり、友達を待ったりできるようになってきています。ルールのある遊びを通して、クラスのみんなで楽しめる機会を持つようにしています。

初めにルールを説明します。
①前を向いて一列に並びます。
②前の人からボールを受け取ったら、後ろを向いて次の人に渡します。

では、スタート！ボールを落とすことなく、最後までボールが到着！
「次は、もっと早くできるかな？」と声をかけると、みんな早くやろうと意識し、２回目は初回より早くゴールしました！
早くできたことを伝えると「ヤッター！」とみんなで飛び跳ねながら喜んで、クラスが一つにまとまった瞬間を見ることができました。

また、繰り返し行っていると、急ぎすぎてボールを落としてしまう子もいますが「がんばって～」と声を出して応援する子も出てきました。！ボールを渡し終えた子も、後ろが気になって身を乗り出してボールの行方を追って見ていました。

まだ、簡単なルールのゲームですが、今後いろいろなゲームをして、子ども達が一つの事をみんなで協力し、成功した時の喜びを一緒に感じる経験を増やしていきたいと思います。
この経験から、ルールのより難しい「こおりおに」などの鬼ごっこなどを楽しめるようになり、４歳５歳児クラスでは、保育者抜きでも、子ども達が楽しめるようになっていきます。

記事：山口

幼児クラスになると、ルールのある遊びができるようになります。その為には、順番が守れたり、ルールを理解したりする力が必要になります。又、鬼ごっこをする時には数を数えなくてはなりませんし、鬼の役が嫌だなと思っても、自分がタッチされたら引き受けなくてはならないですよね。そのような体験から学ぶことはたくさんあり、遊びの中で楽しい事だからこそ、自然に学べることがあるのだと思います。

よ～～い　ドン！

2015.12～　ひよこ組　０歳児クラス

「よーい ドン！」笑顔で楽しそうに走ります☆

４月は、ハイハイやつかまり立ちしかできなかったひよこ組さんも、今は歩いたり、走ったりがとても上手になってきました！
運動会で、かけっこをやって以来「よーい ドン」という掛け声をかけると走り出します。

ある日、テラスでかけっこをしていた時のエピソードです。
ときわぎのテラスは細長いのですが、そのテラスの端に集まっていた子ども達。反対側の端から保育者が、
「よーい ドン！」と声をかけると、みんなで一斉に走り出しましたっ！

安定した走りをする子もいれば、少しおぼつかない様子で走る子もいます。そんな時、Ｍちゃんが転倒！保育者がＭちゃんに近づいて行こうとしたのですが、一緒に走っていたＭちゃんがいない事に気が付いたＳちゃんがＵターンして来てくれました。

Ｍちゃんの所に近寄り、転んでしまったＭちゃんの顔を、体を低くしてのぞき込むと「あーん～??」（おそらく“大丈夫？”といったのでしょうか）と言いながら頭をナデナデ。泣きそうになっていたＭちゃんは、泣くことなく立ち上がり、もう一度二人で走り始めたのです。

そんな光景を見て、あの小さかった赤ちゃんたちが、歩いたり、走ったりするようになり、友達の事も気にかけるような優しい子に成長していると感じました。入園して８か月本当に立派に大きくなっているなとしみじみ思います。

記事：林

一緒に走っていた友達の事を気にかけるという、微笑ましいエピソードでしたね。日々一緒に過ごす中でも、小さな変化、泣き出してしまった友達に、言葉で発することが出来なくても心配そうな表情をします。

保育者が普段ほかの子に関わっている姿も、子ども達はよく見ています。そして周りにいる友達の事を少しずつ意識し始めるのです。0 歳のひよこ組は言葉で発することが難しくても、表情や、そばに駆け寄ったり、頭を撫でたり…とても暖かいエピソードがいつも溢れています。